

平成28年度

文部科学省大学改革推進事業
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

がん患者コーディネーター養成コース 募集要項・シラバス

インテンシブコース(特別聴講生)



Tokyo Oncology Professional
都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育



杏林大学大学院保健学研究科

1. 専門分野

がん専門医療従事者

2. 対象者

がん医療に従事する看護師（臨床経験 5 年以上）

3. 修業年限（期間）

9 月から 11 月末とする。

4. 養成する人材像

がん患者のQOLの維持・向上の視点に立ち、様々なニーズに答えられるコーディネーターの役割機能を果たすこと。また、退院支援として病院と地域医療のコーディネーションができる人材の育成。

5. 内容・特色

がん医療に従事する臨床経験 5 年以上の看護師に対し、がん看護における基礎的知識を習得するための教育支援をする。特に症状緩和の技術演習として、リンパ浮腫緩和に対するリンパマッサージの技術習得や、コーディネーションスキルを学ぶための体験学習が充実している。

6. 到達目標

- 1) がん患者の症状マネジメントに必要な知識や技術、病院での入院治療から在宅への療養生活にスムーズに移行できるようコーディネートする能力を習得する。
- 2) がん医療とその看護、並びに地域連携を推進する基礎的知識を習得し、がん患者に対し質の高い看護が実践できる。

7. 授業形態

講義・演習

8. 担当教員（専門分野）

教授 中島恵美子（成人看護学）
教授 加賀谷聡子（成人看護学）
教授 浅沼奈美（精神看護学）
講師 量倫子（成人・高齢者看護学）
講師 吉井真美（成人・高齢者看護学）
講師 柴崎美紀（基礎・在宅看護学）

特別講師

古瀬純司（杏林大学医学研究科 腫瘍内科学 教授）
長島文夫（杏林大学医学研究科 腫瘍内科学 准教授）
佐藤佳代子（学校法人後藤学園附属リンパ浮腫研究所 所長）
浦山絵里（ひとつくり工房 esuco 代表 ナースファシリテータ）
近藤百合子（社会福祉法人聖ヨハネ会桜町病院聖ヨハネホスピス緩和ケア認定看護師）
鈴木理恵（山形大学医学部附属病院 がん看護専門看護師）
窪田靖志（独立行政法人国立病院機構災害医療センター）
新田理恵（杏林大学医学部附属病院 がん化学療法看護認定看護師）
坂元敦子（杏林大学医学部附属病院 がん看護専門看護師）
加藤雅江（杏林大学医学部附属病院 ソーシャルワーカー）
伊藤祐子（杏林大学医学部附属病院 緩和ケア認定看護師）

9. コース内容

【講義日程】

No	講義月日	時限	講義テーマ	担当教員
1	9/9（金）	3	ガイダンス がん看護の対象となる患者とその家族の理解と支援方法	中島 恵美子
2	9/9（金）	4	がんとは、がん治療の現状（総論）	古瀬 純司
3	9/17（土）	1・2	化学療法を必要とするがん患者の看護	新田 理恵
4	9/17（土）	3・4	放射線療法を必要とするがん患者の看護	鈴木 理恵
5	9/20（火）	1・2	がんのリハビリテーション	吉井 真美
6	9/20（火）	3・4	がん治療を受ける患者の倫理調整	坂元 敦子
7	9/28（水）	1・2	高齢者のがん診療	長島 文夫
8	9/28（水）	3・4	がん患者の抱えるストレスと危機に対する援助	加賀谷 聡子
9	10/3（月）	1-5	コーディネーターとは 円滑なコーディネートの方法 ①コミュニケーションスキル ②ファシリテーションスキル	浦山 絵里
10	10/4（火）	1-5		
11	10/12（水）	1・2	緩和ケアとは ～がん治療における諸症状の緩和に必要とされる援助～	量 倫子
12	10/12（水）	3・4	緩和ケアにおける症状コントロール	伊藤 祐子
13	10/15（土）	1・2	緩和ケアチームにおける疼痛管理の実際	窪田 靖志
14	10/15（土）	3・4	援助関係におけるサイコダイナミックス	浅沼 奈美
15	10/20（木）	1-5	リンパ浮腫の治療とケア（講義・演習）	佐藤 佳代子
16	10/21（金）	1-5		
17	10/22（土）	1-5		
18	11/4（金）	1-5	円滑なコーディネートの方法 ①および②について実践の振り返り	浦山 絵里
19	11/10（木）	1・2	退院支援	加藤 雅江

20	11/10 (木)	3・4	ホスピスにおける緩和ケアと看取り	近藤 百合子
21	11/17 (木)	1・2	在宅における緩和ケアと看取り 在宅療養におけるコーディネーター (在宅療養移行時に必要な看護支援)	柴 崎 美 紀
22	11/17 (木)	3・4	事例検討 インテンシブコースのまとめ	中 島 恵 美 子

【会 場】看護・医学教育研究棟 2 階 203 講義室・3 階 成人看護実習室

【時間割】 1 時限 9 : 10～10 : 40
2 時限 10 : 50～12 : 20
3 時限 13 : 10～14 : 40
4 時限 14 : 50～16 : 20
5 時限 16 : 30～18 : 00

【講義詳細】

回 数		
1	講 義 名	ガイダンス がん看護の対象となる患者とその家族の理解と支援方法
	担 当 教 員	中島 恵美子 杏林大学大学院保健学研究科 成人看護学教授
	講 義 日 程	平成 28 年 9 月 9 日 (金) 3 時限
	講 義 内 容	化学療法は、がんの内科的治療として幅広く実施されています。 化学療法の概要と抗がん剤開発の変遷、効果判定の方法について学習し、現在主流である外来における化学療法のケアについて理解を深めます。さらに、研究に基づいた結果を解説しながら、がん患者に対するケアと、患者とその家族を支えるためのアセスメントの方法を教示します。
2	講 義 名	がんとは、がん治療の現状 (総論)
	担 当 教 員	古瀬 純司 杏林大学大学院医学研究科 腫瘍内科学教授
	講 義 日 程	平成 28 年 9 月 9 日 (金) 4 時限
	講 義 内 容	がん治療は、手術・放射線治療・抗がん剤治療の 3 本柱で行われており、日々進歩しています。がんの病理形態についてわかりやすく論説したうえで、現在行われているがん治療における基本的な考え方、がん薬物療法の意義や効果、副作用など最新の知識を教授します。

3	講 義 名	化学療法を必要とするがん患者の看護
	担 当 教 員	新田 理恵 杏林大学医学部付属病院 がん化学療法看護 CN
	講 義 日 程	平成 28 年 9 月 17 日 (土) 1・2 時限
	講 義 内 容	本講では、がん化学療法薬の投与により生じる頻度が高い消化器毒性と症状マネジメント、分子標的治療薬について学びます。消化器毒性では、メカニズム・リスク因子・評価方法について学習し、さらに症状マネジメントとして実施されている薬物的介入と看護支援の実際まで理解を深めていきます。また、がん分子標的薬の特徴を体系的に理解するとともに、重篤な有害事象となり得る皮膚障害の種類・評価方法・看護の実際について講義を行い、日々発展する化学療法において応用可能な知識の習得を目指します。
4	講 義 名	放射線療法を必要とするがん患者の看護
	担 当 教 員	鈴木 理恵 山形大学医学部附属病院 がん看護 CNS
	講 義 日 程	平成 28 年 9 月 17 日 (土) 3・4 時限
	講 義 内 容	本邦で、現在実施されている放射線療法の種類と治療の流れ、急性期有害事象とその看護について学びます。急性期有害事象では、放射線宿酔・骨髄抑制・脱毛・放射線皮膚炎・唾液分泌低下・肺臓炎など症状を分類して詳細な説明を行うとともに、その対応についても論説します。がん看護専門看護師として受け持った事例を提示し、具体的な介入ポイントやアセスメント、ケア方法を教示し、放射線療法における看護の役割について考察していきます。
5	講 義 名	がんのリハビリテーション
	担 当 教 員	吉井 真美 杏林大学保健学部 成人・高齢者看護学講師
	講 義 日 程	平成 28 年 9 月 20 日 (火) 1・2 時限
	講 義 内 容	がんのリハビリテーションの基本的知識を学習します。さらに、現在、移植医療の一環として、実際にリハビリテーションを組み入れている施設が増えており、造血幹細胞移植を受ける患者のリハビリテーションを例に挙げて、研究結果に基づいた患者の活動の実際と看護支援プログラム、その有効性について説明します。また、医師・看護師・理学療法士が担当できる役割や業務を明確にするとともに、連携を図りながら取り組んでいくためには、看護師がどのように initiative をとっていけば良いかなどを講義します。
6	講 義 名	がん治療を受ける患者の倫理調整
	担 当 教 員	坂元 敦子 杏林大学医学部付属病院 がん看護 CNS
	講 義 日 程	平成 28 年 9 月 20 日 (火) 3・4 時限
	講 義 内 容	がん看護を実践するうえで重要である倫理とは何か、そして倫理的問

		<p>題に直面した際に必要とする能力について基本的知識を学習します。</p> <p>さらに、地域がん診療拠点病院のがん看護専門看護師として、患者や家族、様々な医療従事者から相談を受ける立場から、実際に対応してきた事例を紹介し、倫理調整の具体的な方策を学び、考察できるよう展開していきます。</p>
7	講 義 名	高齢者のがん診療
	担 当 教 員	長島 文夫 杏林大学大学院医学研究科 腫瘍内科学准教授
	講 義 日 程	平成 28 年 9 月 28 日（水） 1・2 時限
	講 義 内 容	<p>超高齢社会に突入した日本では、特に首都圏の高齢者数の増加が予想されており、地域の診療体制に工夫が求められています。高齢者のがん患者の場合、併存疾患を抱えていることが多く、医学的な対応以外にも身体的・精神心理的・社会的問題といった様々なリスクを評価して治療を進める必要があります。本講では、高齢者に対するがん診療の基本的知識や対応、地域がん診療拠点病院と、地域の病院や診療所との連携を推進するための取り組みなども概説します。</p>
8	講 義 名	がん患者の抱えるストレスと危機に対する援助
	担 当 教 員	加賀谷 聡子 杏林大学大学院保健学研究科 成人看護学教授
	講 義 日 程	平成 28 年 9 月 28 日（水） 3・4 時限
	講 義 内 容	<p>ストレス・コーピング理論に基づき、がん患者が抱えるストレスと対処法を学びます。また、ストレスが長期化することにより、患者は極限状態へとおかれ、危機となることから、危機理論についても論説します。ストレスから危機までを系統的に学習することにより、包括的な心理的援助ができよう展開していきます。</p>
9・10・18	講 義 名	<p>コーディネーターとは</p> <p>円滑なコーディネートの方法</p> <p>① コミュニケーションスキル</p> <p>② ファシリテーションスキル</p> <p>③ ①および②について実践の振り返り</p>
	担 当 教 員	浦山 絵里 ひとづくり工房 esuco 代表 ナースファシリテータ
	講 義 日 程	<p>①②平成 28 年 10 月 3 日（月）・4 日（火） 1～5 時限</p> <p>③平成 28 年 11 月 4 日（金） 1～5 時限</p>
	講 義 内 容	<p>がん看護に携わる看護師は、患者と家族、患者と他職種の医療者、病院と在宅医療など様々な場面でコーディネーターとしての役割が求められます。本講では 2 日間にわたってコミュニケーションとファシリテーションのスキルについて学習し、円滑なコーディネートやファシリテータとして臨床現場で活用できる知識と技能を習得します。ファ</p>

		シリテーションの役割と重要性をわかりやすく論説するとともに、自分自身を理解し、安心して安全な話し合いの場をどのように作ってあげば良いかを学びます。様々な体験型のワークを織り込むことにより、楽しく進めていきます。
11	講 義 名	緩和ケアとは がん治療における諸症状の緩和に必要とされる援助
	担 当 教 員	量 倫子 杏林大学保健学部 成人・高齢者看護学講師
	講 義 日 程	平成 28 年 10 月 12 日（水） 1・2 時限
	講 義 内 容	緩和ケアの歴史、緩和ケアの定義などの基本的知識に加え、がん医療における緩和ケアの位置づけと重要性について学習します。さらに、実践が難しいとされるスピリチュアルケアについて、スピリチュアルケアの概念・スピリチュアルペインの構造・アセスメント・ケアの実践までをわかりやすく論説します。講義では、 Spiritual Pain Assessment Sheet を用いた事例検討を行うことにより、がん患者に対する全人的ケアの理解を深めていきます。
12	講 義 名	緩和ケアにおける症状コントロール
	担 当 教 員	伊藤 祐子 杏林大学医学部付属病院 緩和ケア CN
	講 義 日 程	平成 28 年 10 月 12 日（水） 3・4 時限
	講 義 内 容	緩和ケアは、終末期の患者だけでなく、がんと診断されたときから実践していくための取り組みがなされており、看護師への期待は益々高まっています。本講では、基本的緩和ケアとしてがん患者が体験する様々な症状とその看護を具体的に説明したうえで、事例検討によって理解を深めていきます。がんと診断され、心身ともに苦痛を持っている可能性のある患者に対し、看護師が緩和ケアの担い手として役割を発揮できるよう実践能力の向上を目指します。
13	講 義 名	緩和ケアチームにおける疼痛管理の実際
	担 当 教 員	窪田 靖志 独立行政法人国立病院機構 災害医療センター
	講 義 日 程	平成 28 年 10 月 15 日（土） 1・2 時限
	講 義 内 容	がんによって引き起こされる疼痛の分類・機序・評価方法、ならびに WHO 方式のがん疼痛治療法に基づいた鎮痛薬と鎮痛薬以外の疼痛治療法 について学習します。疼痛の評価については、具体的な評価方法をわかりやすく論説します。また疼痛治療法においては、現在主に使用されている鎮痛薬である NSAIDs、アセトアミノフェン、オピオイド 、末梢神経障害性疼痛治療薬、鎮痛補助薬など各薬剤の適応ならびに有効性、副作用とその対策までを学び、がん性疼痛の看護において応用可能な知識の習得を目指します。

14	講 義 名	援助関係におけるサイコダイナミックス
	担 当 教 員	浅沼 奈美 杏林大学大学院保健学研究科 精神看護学教授
	講 義 日 程	平成 28 年 10 月 15 日（土） 3・4 時限
	講 義 内 容	本講では、専門看護師、認定看護師の役割の一つとして、コンサルテーション活動が位置づけられていることから、コンサルテーションについて系統的に学習し、がん看護に携わる看護師と患者の援助関係におけるサイコダイナミックスについて展開していきます。効果的なコンサルテーションの実践を目指し、クライアントと援助者の反応および感情の理解や、コミュニケーションの活用について理解を深めていきます。講義は、演習やディスカッション、箱庭療法などを活用しながら進めていきます。
15・16・17	講 義 名	リンパ浮腫の治療とケア（講義・演習）
	担 当 教 員	佐藤 佳代子 後藤学園附属リンパ浮腫研究所 所長
	講 義 日 程	平成 28 年 10 月 20 日（木）～22 日（土） 1～5 時限
	講 義 内 容	3 日間にわたる集中講義によって、リンパ浮腫の治療とケアにおける実践可能な知識と技能を学びます。1,2 日目はリンパ浮腫のメカニズムや症状、治療とケアなど基本的な知識を習得した後に、医療用リンパドレナージと圧迫療法の実技演習を中心に進めていきます。さらに 3 日目は弾性着衣の着脱・終末期ケア・ロールプレイを中心に学習します。知識だけでは実践が難しいリンパ浮腫のケアを、担当教員の指導のもとで演習を行うことにより、正確な技能を習得することを目指します。演習では受講生同士でリンパマッサージなどの練習をしますので、T シャツと半ズボンをお持ちください。
19	講 義 名	退院支援
	担 当 教 員	加藤 雅江 杏林大学医学部付属病院 ソーシャルワーカー
	講 義 日 程	平成 28 年 11 月 10 日（木） 1・2 時限
	講 義 内 容	病院におけるソーシャルワーカーの役割や退院支援の基本的知識について学びます。また、がん患者との対話や情報提供を行うことが多いソーシャルワーカーの視点から退院支援をする際の留意点などをわかりやすく説明します。さらに、事例を用いて看護師がどのような支援を提供できるかを考察していきます。
20	講 義 名	ホスピスにおける緩和ケアと看取り
	担 当 教 員	近藤 百合子 桜町病院聖ヨハネホスピス 緩和ケア CN
	講 義 日 程	平成 28 年 11 月 10 日（木） 3・4 時限
	講 義 内 容	ホスピスにおける緩和ケアの理念・ケア方針・看護師の姿勢・症状マネジメントなど基本的な知識を学びます。さらに、終末期の患者への

		看護を实践するうえ看護師が遭遇する日々のケアへの疑問や倫理的問題、悲嘆についても学習し、理解を深めていきます。ホスピスで多くの患者を看取ってきた緩和ケア認定看護師が、「チームケアにおける看護師の役割」「看取りのケア」についても詳説する貴重な講義となっています。
21	講 義 名	在宅における緩和ケアと看取り 在宅療養におけるコーディネーター (在宅療養移行時に必要な看護支援)
	担 当 教 員	柴崎 美紀 杏林大学大学院保健学研究科 基礎・在宅看護学講師
	講 義 日 程	平成 28 年 11 月 17 日 (木) 1・2 時限
	講 義 内 容	在宅で療養を希望するがん患者への適切なコーディネートを行うためには、高齢者の介護とは異なるがん患者特有の在宅療養を取りまく現状と、前提条件、仕組みを理解しておく必要があります。本講では、がん患者の在宅における緩和ケアに焦点を当て、在宅療養の導入に必要な支援について解説していきます。さらに、一人暮らしなど対応が困難であると考えられるがん患者に対して、事前準備やどのようなケアを提供していくべきかを教示します。
22	講 義 名	事例検討 インテンシブコースのまとめ
	担 当 教 員	中島 恵美子 杏林大学大学院保健学研究科 成人看護学教授
	講 義 日 程	平成 28 年 11 月 17 日 (木) 3・4 時限
	講 義 内 容	受講生が日頃の臨床実践で感じている疑問点や看護支援の方法などについて事例をあげてもらい、受講した講義を参考に分析を行います。インテンシブコースのまとめとして、今後のがん看護の実践で活用できる方法論を見出すことができるよう考察していきます。

10. 修了証

規定コマ数以上受講された方には、本学からの修了証を発行します。

11. 募集について

希望される方は次の書類を期限までに提出し、手続をしてください。

- 1) 特別聴講生願書（インテンシブコース願書）
- 2) 写真 1 枚（縦 3cm×横 2.4cm）※願書に貼付してください。
- 3) 受講料

12. 受講料について

15,000 円（受講コマ数に関わらず一律。演習時の教材費を含む）

但し、受講にかかわる大学及び大学付属病院までの交通費・宿泊費等は各自負担。

- ・受講日初日、看護・医学教育研究棟 203 講義室にてお支払ください。
- ・いったん納入された受講料は理由の如何に係わらず返還しません。

13. 申込先

「特別聴講生願書(インテンシブコース願書)」に必要事項をご記入のうえ、
期日までに杏林大学がんプロ事務局へ持参または、郵送にて提出してください。

申込期限：平成 28 年 8 月 31 日（水）

14. お問い合わせ先

杏林大学 医学部事務課内 がんプロ事務局

〒181 - 8611 東京都三鷹市新川 6-20-2

TEL： 0422 - 47 - 5511（代表） 内線 3211

受付時間： 平日 9：00～17：00 土曜日 9：00～13：00

E-mail：ganpro@ks.kyorin-u.ac.jp

HP：http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/feature/cancer_pro/

